

【資料 1】 令和6年度 年次報告

1. 令和 6 年度協議会の活動実績
2. 部会からの報告（テーマ活動）
3. 持続可能な観光ワーキング報告

1. 令和6年度協議会の活動実績

①各主体が進める事業の内容確認／進捗確認

- ✓ 各主体の今年度事業の進め方について、確認と意見交換（11月、第1回協議会）
- ✓ 部会の構成及び今年度のテーマ活動（案）について確認と意見交換（11月、第1回協議会）
- ✓ 各業務の進捗等の評価・確認（3月、第2回協議会）

【資料1別添①②】参照

②部会におけるテーマ別活動の推進

- ✓ 部会開催（11月、第1回合同部会。2月、第2回合同部会）
- ✓ 部会において、まちづくりに関するテーマ活動を実施（11月～1月にかけて企画・開催）

③持続可能な観光ワーキンググループにおける検討

- ✓ WG開催（1月、第1回WG。2月、第2回WG）
- ✓ 持続可能な観光の視点を加えて、首里杜地区での取り組みの成果を見える化するための指標を検討
- ✓ 関連して、GSTC研修に任意メンバーが参加

④首里杜地区のまちづくりや協議会に関する情報発信

- ✓ 構成員のネットワークを生かした情報発信を実施

2. 部会からの報告ーテーマ活動実施概要

- 令和6年度は、「地域資源案内検討」「地区交通の検討」のテーマ活動を合同開催した。地域住民、首里杜地区の事業者、観光部局・関連団体、研究者・学生を対象としたワークショップを合計8回、実施した。
- 住民の意見をより詳しく収集するため、字単位でチームをつかってグループワークする工夫をした。



地域資源案内検討	・地域資源を確認しながら、首里エリアのサインの考え方を整理する。 ・点在する地域資源等の案内や誘導の考え方には、生活エリア（路線）と観光エリア（路線）のゾーニングや、望ましい周遊のあり方も踏まえる。
地区交通の検討	・地区の交通安全や渋滞対策、周遊検討などにおいて基本となる、生活エリア（路線）、観光エリア（路線）、交流エリア（路線）など地区のゾーニング検討を引き続き行う。

回	地区	日程・場所	参加者数
テーマ活動①	全域	2024年11月18日(月) 首里公民館	53名
テーマ活動②	ニシカタ地区	2024年11月25日(月) 首里公民館	13名
	三箇地区	2024年11月27日(水) 城南小学校地域連携室	16名
	金城町等地区	2024年12月10日(火) 首里城公園管理センター	12名
テーマ活動③	ニシカタ地区	2024年12月12日(木) 首里公民館	19名
	三箇地区	2024年12月11日(水) 城南小学校地域連携室	13名
	金城町等地区	2025年1月8日(水) 首里城公園管理センター	3名
テーマ活動④	全域	2025年1月19日(日) 首里公民館	17名
合計（延べ）			146名

2. 部会からの報告ーテーマ活動の成果と課題

主な成果

(1) テーマ活動を通して共有したこと

- ・ **車両**  **OK** 歩車道が分離された幹線道路はOK
NG その他の道には基本的に入ってほしくない
- ・ **歩行者**  **OK** 歩行者はどこを通っても構わない
ただし観光客のマナー順守が必要
NG あまりにも迷いそうな道、プライベートすぎる路地・資源のない新住宅地は入らない
ほうがいい
- ・ 首里駅・儀保駅・首里城公園までの誘導サインがもっとあった方がよい（距離標も必要）
- ・ 昔の道の名称サインを整備することで、地域への理解・愛着を深めたり、観光客の迷子防止になるのでは
- ・ 首里で商売している人は首里で生活している人が多い
→まちづくりにも関心が高く、首里の良いところであり大事にしていきたい 等

(2) テーマ活動開催で得た間接的な成果

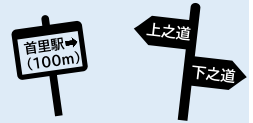
- ・ たくさんの人に参加していただき、地域住民・事業者への協議会活動の周知につながった
- ・ 地域・事業者・行政それぞれの立場から意見交換ができ、互いにできることや協力する必要があることを共有できた

課題

(1) 成果の反映・実現

- ・ 成果等を各主体が実施する事業や取組へ反映させ、実現させていくための検討が必要である

→資料3にて詳細説明



(2) 成果や活動内容のさらなる共有・周知~もっと多くの地域住民・事業者へ~

- ・ 参加していない人への内容共有
→（例）資料の配布・瓦版作成 等
- ・ 継続的な議論と内容共有/シームレスな次年度へのつなぎ
→テーマ活動の継続
- ・ 参加しやすい参加方法の検討 
→引き続き多くの方が参加しやすい曜日・時間帯・開催方法などを模索していく必要がある（今年度、全体開催回（①,④）は地域事業者も参加しやすい時間帯で開催した）

2. 部会からの報告ー一周遊の基本ルート（案）

周遊ルートに関するテーマ活動での意見

- 周遊ルートをつくるなら、モノレール駅か首里城公園を終着点にしたほうがいい
- 琉球菓子店が多いエリアや泡盛の酒蔵があるエリアなど、まちの特徴をテーマにしたルートをつくるのはどうか
- 龍潭通りなど大きい通りがメインルートになるだろう
- 今まで周遊ルートは多くつくられてきたが、どれも定着していない

周遊ルートをつくる意義

- 地域の中で歩いていい道・資源へと誘導し、入ってほしくない道・資源への立ち入りを回避する
- 地域の店舗や歴史文化資源の情報を発信し、地域の活性化や経済振興につなげる
- 観光客の首里城公園への一極集中を抑制する
- 「歩きたい」という意欲をわかせることで、徒歩や公共交通での移動に転換し、車両交通量を減らす

首里杜地区での周遊ルート検討の考え方

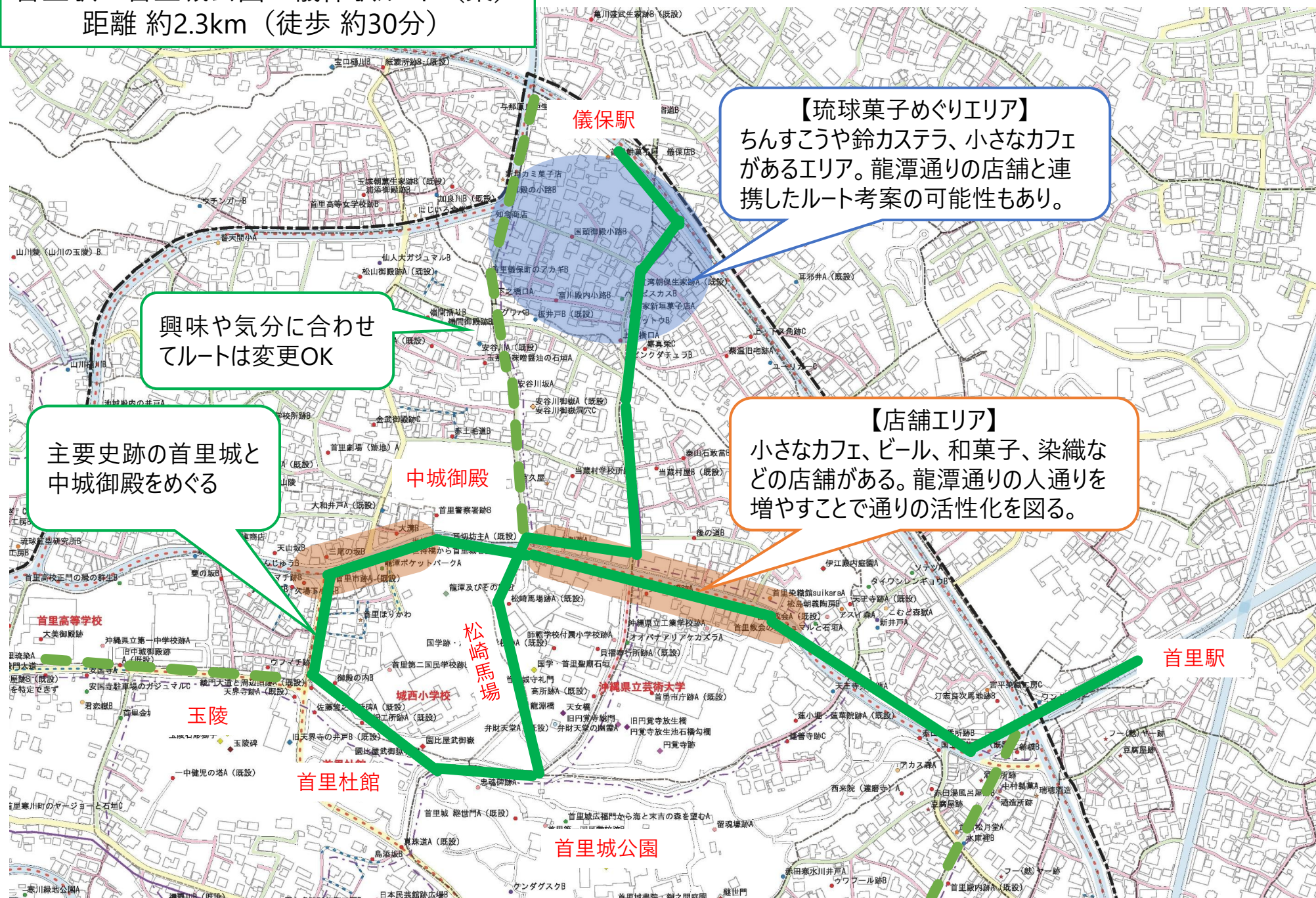
- 首里杜地区は周遊テーマの切り口が多い（例：琉球王家の歴史、その他歴史資源、琉球菓子、泡盛・・・）
→基本ルートをつくり、来訪者に自分の興味関心やニーズによってカスタマイズしてもらうほうがいい
- 基本ルートをつくることで、まちの活性化に向けて事業者と連携しやすくする。
- 基本ルートをつくることで、周遊に必要な環境整備の足掛かりをつくることのできる

今後の検討事項

- 基本ルート（案）の確定
- 周遊に必要な環境整備の推進（例：駅や道路でのマップ掲示、誘導サインの設置など）
- 基本ルートの活用推進（例：まちまーいとの連携、地域の事業者や首里城公園との連携など）

2. 部会からの報告ー一周遊の基本ルート（案）

首里駅～首里城公園～儀保駅ルート（案）
距離 約2.3km（徒歩 約30分）



3. 持続可能な観光ワーキング報告

回	日時	主な議論テーマ	主な意見
第1回	2025年 1月28日(火)	「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」を活用した観光指標の検討方針について	・JSTS-Dのすべての項目に取り組むのは困難。気付きを得るための参考としては。 ・首里杜地区整備基本計画の方針に紐づけては。 ・評価作業を担う主体が問題。
第2回	2025年 2月10日(月)	首里杜地区における観光指標の検討	・指標は調査負担を考慮し継続できることも重要。 ・県全体のサステナブルツーリズム推進と逆行しないこと。 ・指標よりもエリア別ガイドラインづくりが必要。

JSTS-Dの視点で見た首里杜地区の 持続可能な観光の現状

- **マネジメント分野のサステナビリティ**：基本体制は構築されているが、観光地経営の組織化や取り組みが弱い。
- **社会経済分野のサステナビリティ**：旅行者の数や社会への負荷、地域経済への貢献が測れていない。
- **文化のサステナビリティ**：文化遺産の保護は良好。旅行者の振る舞いに関する取り組みは進んでいない。
- **環境のサステナビリティ**：対象物がもともと少ない。

ワーキング会議の意見を踏まえた 指標設定の方針

- ・ 首里杜地区整備基本計画の基本方針と関連が高いJSTS-D評価指標に沿って指標を検討する
- ・ JSTS-D評価指標のすべてに取り組むのではなく、有用性・可能性を判断してできるところから設定していく
- ・ 指標検討にあたっては沖縄県、那覇市のサステナブルツーリズム関連計画と連携する

3. 持続可能な観光ワーキング報告

短期・中期目標

短期目標（～令和8年度）

- 首里城正殿完成時に多くの観光客が訪れることを想定し、周遊のための環境整備や観光ルールづくり等のハード・ソフト両面の整備を進める。それにより、「首里を大切に観光」に対する観光客・地域住民の意識醸成を進め、受け入れ態勢を整え、オーバーツーリズムの影響を予防する。また、交通政策を進め、渋滞を発生させない環境づくりが推進される。

中期目標（～令和13年度）

- 首里城公園に訪れた観光客が、まち全体を楽しんで周遊することができ、観光による地域の活性化や経済循環、住民活動やまちへの利益還元ができるようになる。また、交通渋滞等の地域への負荷がさらに軽減され、住民の暮らしが豊かになる。

3. 持続可能な観光ワーキング報告

成果指標（案）

新たな指標は、個々の事業進捗だけでは見えない「目標とした将来像に近づけているか」を住民、行政、関係者が広く共有・認識するためのものとして検討。

	ロードマップと紐づく指標（案）	短期	中期
暮らしと観光の交通改善	混雑の状況（渋滞長/渋滞回数）	現状維持	現状維持
	利用交通手段	公共交通利用者の増加	公共交通利用者の増加
	時間分散（午前集中割合）	午前集中割合の低下	午前集中割合の低下
	首里杜地区観光メニューの造成数（まちまーいルート、ボランティアツアー等）	2件追加（那覇まちまーい1件、その他1件）	さらに5件追加（1年に1件追加）
	首里杜地区内の県外観光客の分散傾向（人流データ）	首里城公園以外の場所での滞在者数	首里城公園以外の場所での滞在者数
安全	事故減少	減少	減少
振興	商店会の会員数	増加	増加

既往のものと連携した指標（案）	連携元
【KPI】観光客が訪れることにより、「文化資源や自然資源が保存・継承される」と思う県民の割合	【県】(1)安全・安心・快適でSDGsに適應した観光地マネジメント No.11 レスポンシブルツーリズムの推進
【KPI】観光客に対する首里織や壺屋焼等の特産品認知度	【市】2.NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承 (イ) データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施
【KGI】観光客に来訪してほしいと思う市民の割合	【市】目指す姿（市民）
【KPI】観光振興によってメリットがあると感じる市民の割合	【市】4.地域一体推進体制の強化 (ウ) 市民生活と観光振興の調和
【KPI】観光振興によってデメリットがあると感じる市民の割合	【市】4.地域一体推進体制の強化 (ウ) 市民生活と観光振興の調和